

相模湾初島沖
「深海底総合観測ステーション」

海洋研究開発機構は、1993年に水深1174mの海底に「深海底総合観測ステーション」を設置して、長期連続観測を開始しました。これには、ビデオカメラ、地震計、水中マイクをはじめ多数の観測機器が装備されています。観測データは、初島を経由して海洋研究開発機構横浜研究所まで送られ、リアルタイムで観測することができます。このような深海底の総合観測では群発地震の際、海底地すべりに伴う泥流を捉えるなど、深海底で発生する現象について多くの知見が得られています。

